



冷水と熱気が織りなす極限のイベント  
天下の奇祭に2万4,300人が訪れる

冬の風物詩、一関市・大東大原水かけ祭り(同保存会主催)は2月11日、大東町大原地内で行われました。

今年は、地元の厄年男性ら136人、県内外から164人の裸男たちが参加。同地区内の八幡神社への大しめ縄奉納行進、芸能公演、蒸気ポンプ放水実演など多彩な催しが行われました。

祭りの起源は、明暦3年(1657年)に起きた江戸の大火。以来、火防を祈願し、呼びかける祭りとして受け継がれ、今年で358年目を迎えました。天下の奇祭を目に焼き付けようと、訪れた来場者の数は2万4,300人。

裸男たちは、八幡神社で厄払いと火防を祈願。出発の合図を待ち、旗切りの合図とともに一斉に駆け出しました。沿道からは、歓声と、大量の清め水が容赦なく掛けられます。

「大願成就」や「復興」など、それぞれの願いを背負った裸男たちは、寒さを気合いで吹き飛ばしながら、力強く商店街を駆け抜けました。

1\_肩を組んで山口川に入る裸男たちに「納め水」が掛けられる / 2\_冷水が描くアーチの中を駆け抜ける / 3\_沿道も水浸し / 4\_防火の誓いを新たにす消防団 / 5\_米寿や年祝いも同時に行われる / 6\_向こうが見えないほどにぎわう商店街



新しい働き方とマネジメントで人生を豊かに  
イクボスの存在が会社と社会を変える

「ライフ&コミュニティ講演会」は2月17日、一関保健センターで開かれました。この講演会は県男女共同参画センター(姉帯幸子センター長)が女性の活躍を推進するために県から受託して実施したものです。

講演では「いつまでも会社があると思うなよ!」の著者である川島高之さんが「イクボスで事業も笑顔も共にアップ!」と題し、仕事、生活、社会を満喫する生活について説明しました。イクボスとは部下の私生活を理解し、自らも私生活と職責を両立する管理職のこと。イクボスが率いる組織は、個人の仕事能力と組織力が向上し、業績が伸びるといわれています。



農業女子らが交流セミナー  
一步先行く農業経営の実現を目指す

「農業女子交流セミナー」は2月9日、両磐地区職業訓練センターで開かれました。午前中は、手書きの文字やイラストとパソコン操作を組み合わせた名刺の作成。午後は、資産管理や社会保障について学ぶなど、自らの農業経営と向きあいました。

室根町でピーマン栽培に取り組む岩淵美香さん(28)は「初めて名刺を作りました。思ったより簡単なので、チラシづくりにも役立てたいです」と意気込みます。

農業女子らは、具体的なライフプラン設計の演習を行い、夢と希望を実現するための未来予想図を描いていました。



- ② 早く帰るといっただけで、部下の許
- ③ 部下が急に一人抜けても、対応
- ④ 部下の家族構成を、おむね
- ⑤ 部下と、プライベートな話をよく
- ⑥ 組織の会議、書類、メール等の
- ⑦ 自分自身も、家族、趣味、社会
- ⑧ 組織業績、部下への責任に強

自分たちの地域は自分たちでつくる  
40年の節目を祝い地域の発展を誓い合う

藤沢町住民自治協議会(千田博会長)、婦人消防協力隊(千葉とき子隊長)の創立40周年記念式典は2月7日、藤沢文化センターで開かれました。歴代役員や功労者の表彰が行われ、参加した約430人が住民自治の高まりを誓い合いました。

千田会長は「住民による地域づくりの歴史をこれからも生かしたい」、千葉隊長は「防災の輪が絶えない地域にしたい」とあいさつ。記念講演では、前三重県知事で早稲田大名誉教授の北川正恭さんが「地域協働とまちづくり」と題し、藤沢町のまちづくりを高く評価。「創生のカギは連携。子供や女性の意見も取り入れ、本気でまちづくりに取り組んでほしい」と激励しました。



子供たちもステージで共演  
音楽がつなぐ大船渡線沿線の絆

大船渡線沿線地域の音楽交流を目的に企画された「えきの音楽会」は2月7日、大東コミュニティセンターで開催されました。ステージに立ったのは、当市と陸前高田市、大船渡市出身の3組と、スペシャルゲストとして、ピブラホン奏者で音楽家の玉木孝治さん。市内外から訪れた来場者は、さまざまな音楽を心ゆくまで楽しみました。

音楽会に先立って行われたリズムワークショップには、子供たち23人が参加。自作のリズム楽器を手に、玉木さんと共演しました。参加した佐藤雛さん(大東小2年)は「みんなの出す音が一つになったのが面白かった」と目を輝かせました。



紙芝居「いわいの歴史ものがたり」で学ぶ地域の歴史  
一関の偉人・建部清庵の紙芝居が完成

みちのく中央磐井市民会議と一関市医師会が主催する紙芝居「いわいの歴史ものがたり」新作発表会は2月6日、一関文化センターで開かれ、住民ら約150人が紙芝居「過ぎたるもの建部清庵」を鑑賞し、地域の歴史について理解を深めました。

紙芝居は、江戸時代中期の一関藩医・建部清庵の生い立ちや功績をまとめたもの。内田正好さんが紙芝居を表現豊かに読み上げたり、合唱曲「清庵賛歌」を披露したりしました。

藤井久子さん(城内・59)は「一関には素晴らしい歴史がいっぱい。歴史の魅力が詰まった紙芝居を見て、たくさんの人に地元の歴史や偉人を知ってほしい」と話してくれました。



わんこもちで一関地方の餅文化をPR  
餅の聖地で「餅の大食い日本一」を競う

餅の聖地・一関をPRするイベント「岩手・一関第9回全国わんこもち大会」は2月7日、なのはなプラザで開かれ、団体戦と個人戦で「餅の大食い日本一」を競いました。

今年は、団体戦に14チーム・28人、個人戦に男性8人、女性6人が出場。団体戦は「チームKAWASAKI」の岩淵文一さんと金野和則さんが91個を平らげて3連覇しました。個人戦男性の部は竹田宏国さん、女性の部は阿部直子さんが優勝。団体戦出場者を含む総合個人優勝は、63個を平らげた団体戦「チームうすげ」の三浦昭夫さんでした。仙台市から参戦した磐井洪之さんは「念願の初参加。おいしいけど、苦しいです」とはにかみました。